



















# 愛林の歌

茂る林のその思を  
くみてこそ知れ川水の  
瑞穂豊にみのるなり

(一) (青森大林區著選)

たえぬ流に潤ひて

小増き森のその恵  
仰くも高き山の木の

(二)

千代の榮に國はとみ  
民の心も進むなり

(三)

神の御代より生むし木の  
恵を忘れ思になれ  
伐りてつくまば水はかれ  
國の力もおとろへん

(四)

黒しほあら濱邊より  
白雪積る高ねまで  
植えて守りて國の爲め  
生ひ茂らせよよ森林

平和の色をたぐつ、  
國土をかざる天然の  
四時の眺もとどりに  
森林のすがたの美しや

(一) (帝國森林會選)

雪解の水も雨露も  
落葉木の根に潜ませて

(二)

絶えぬ流の源をなす  
森林此力の頼もしや  
炭に薪に木找に  
無限のたから出せば  
人に與へて世を利する  
森林の恵のたふしや

(三)

いでや世の爲人の爲  
己が身が爲國の爲  
植えて育てん森林の木々  
あなふは伐らず森林の木々

(四)

14. 4-543



1200501207205

14.4

3

終